



エコステーション・フライブルクでは、緑の教室が開かれる



石畳の雨水通路までの1.5mは「緑地の里親制度」で住民が管理する



既存の樹木伐採を禁止した、緑豊かなウォーバン住宅地



BIOGARTEN

自然と共に生きる 緑豊かな街

フライブルク市のヴォーバン
住宅地を歩くと、菩提樹とプラ
タナスの古木が道路沿いや公園
に大きく枝を広げ、住宅の前庭
も縁であります。住宅地
の西側にはビオトープとしての
小川が流れていて、これらは緑
の帯でつながるように計画され
ました。今回はフライブルク市
の緑豊かな自然と、それを守る
市民の活動をご紹介します。



自然のままの小川はビオトープの役割を担う

ヴォーバン住宅地の 樹木保護政策

ヴォーバン住宅地には、約70年前に兵営地の街路樹として植えられた菩提樹やプラタナスがその姿を残しています。これらの樹木が残っているのは、住宅地開発が決定されたときに「フライブルク市樹木保護条例」が締結され、それが厳しく守られてきたからです。都市計画もこの樹木を切らないようく計画され、宅地を買った人も樹木を避けて住宅を建てることとなりました。どうしても理由があつて切り倒さなければならない場合は、代わりとして同種の木を植樹することが義務づけられています。

また、フライブルク市は個人敷地の前庭と道路の間に1・5m

の緑地緩衝帯を設け、この前庭を住民が植栽し管理する「緑地の里親制度」を導入しています。これにより、住民は前庭のスペースが広くなり、道路の環境に気を配ります。地域への愛着が募ると同時に、市はメンテナンスのコストを削減できるのです。

緑地と道路の間には石畳の緩やかな窪地を設けて雨水を下水管ではなく地下に浸透させる工夫がされています。これは地下水を考慮したため、地域全体の植物の水環境を整える役割も担っています。

さらに、ヴォーバン住宅地の西側には小川があり、水辺を好む樹木や生態系が緑の帯を作っています。ここでは倒木も撤去されずに、朽ちた樹木に棲む昆虫や菌類を保護することで生物の多様性が維持されているのです。



小さな農園 クラインガルテン

知り、有機菜園では果物や野菜だけでなくハーブについても学びます。エコステーションは子供たちの学びの場だけでなく、環境に関心のある人たちの交流の場ともなっています。



ワークシェアリングでできた
時間をクラインガルテンで
過ごす親子(左)と
ラウベ前のご夫婦(右)

子供たちへの 自然教育

フライブルクでは環境教育を取り組んでいるさまざまな人たちがいます。その一つがドイツ環境自然保護連盟(BUND)です。BUNDはBUNDの環境教育センターとして1986年に設立され、有機菜園を備えた低エネルギーハウスで、環境に配慮した工夫がこらされています。年間を通して学校や幼稚園の約200グループが訪れて「緑の教室」を体験生徒たちは池や土の中に棲む生き物を観察して、そこに多くの多様な生物が棲むいることがあります。その一つがドイツ環境自然保護連盟(BUND)です。

広さは平均300mで、利用料は年間200戸一戸（約2万円）市の緑化政策の一環として位置づけられています。クラインガルテンには各区画に「ラウベ」と呼ばれる小屋があり、利用者がそれぞれ意匠を凝らして建てています。クラインガルテンという小さな農園を持つことは、セカンドハウスで余暇を楽しむだけでなく、その街と自然に目を向けて緑地環境を維持すること。ドイツではクラインガルテンの賃貸期間は無制限なので、親から子孫へと緑を愛する環境意識を継承することに役立つているようですね。



市民への借貸農園 クライインガルテン

TOP TRANSACTION: FLAIBU

A photograph showing a modern building with a large glass facade and a green roof covered in vegetation. The building is situated on a grassy hillside, with trees visible in the background under a clear blue sky.